



発行 宮崎県立高鍋高等学校 同窓会
宮崎県児湯郡高鍋町 大字北高鍋4262
TEL 0983・23・0005 FAX 0983・23・5096
URL http://www.narumigaoka.jp/

創立90周年記念事業の御礼

高鍋高校同窓会「鳴海ヶ丘会」会長 増田 秀文

高鍋高校創立九十周年事業に際しまして、同窓生の皆様をはじめ、学校関係者、PTAの皆様等、多くの方々に御尽力を賜り、無事に事業を終えることができて、心より御礼申し上げます。

今回の九十周年事業は、厳肅なる記念式典に引き続き「モーツァルト・カンマーオーケスター」による演奏会が催され、一部、生徒さんとの共演もあり、素晴らしい音楽を楽しく拝聴いたしました。

又、同窓会主催による大上敏男先生の講演会は「流るるまに」という演題で、先生が高鍋高校時代のお話をしていたのですが、ユーモアあふれる語り口が、古き良き時代を懐かしみ、時間の経過を忘れる程で、その後の記念式典にも、多くの方々に御参加を頂き盛大に開くことができ、感激ととも

にも、高鍋高校の歴史を再確認したところでです。

他にも、明倫堂記碑、清観公碑の解説の作成、設置、「創設から今日までのあゆみ」の冊子も作成いたしました。この冊子は、高鍋支部の皆さんが中心となって作られ、高鍋高校の歴史をひもとく、これからの高鍋高校のあり方を考えさせられる素晴らしい冊子となっております。

高鍋高校は大正12年、友志の努力により、財団法人高鍋中学校として開設をいたしました。九十年を経過した今、創立以来の明倫堂の教えを基本とし、文武両道を教育理念として、これからも精神「こころ」の学校として、発展させていかなくてはなりません。小冊子ではありますが、実に興味深

く、多くの方々に手に取って欲しいと願う次第です。

また、宮崎日日新聞に31回にわたり「鳴海ヶ丘に誇り」の記事を連載していただきましたが、その記事も冊子に収められています。

今回の事業におきまして、本当に多くの方々に御支援、御協力を賜りました。心から感謝申し上げます。御礼とさせていただきます。ありがとうございます。



創立90周年記念事業について

校長（実行委員長） 首藤 忠一

この度、高鍋高校創立九十周年記念事業を行うにあたり、同窓会「鳴海ヶ丘会」の皆様には多大なる御支援と御協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

同窓会では、四年前の総会で創立九十周年を祝うことを決定され、三年前から理事会や総会等で話し合いを重ねられました。

平成二十三年三月には同窓会・OB 祭実行委員、学校・PTAの合同準備委員会を立ち上げ、事業内容の検討が始められました。その後、実行委員会に引き継ぎ、記念式典



記念演奏会、記念祝賀会と同窓会主催の記念講演会を開催すること、「明倫堂記碑」及び「清観公碑」の説明板作成、「高鍋高校創設までのあゆみ」の冊子化を決定し、準備を進めてまいりました。この間、同窓会の皆様には、御多用の中、企画、準備などに御尽力いただき、大変お世話になりました。

記念式典は本校体育館で挙行之、式典に先立ち「正姿朗誦句」を姿勢を正して聞く伝統の「正姿」をやり、続いて、DVD「高鍋高校創設までのあゆみ」（平成二十三年度OB祭実行委員会制作）を上映し、財団法人高鍋中学校誕生までの歴史的経緯を顧み、当時の方々の創設に懸けた熱い思いを知ることができました。式典をはじめ、演奏会、講演会、祝賀会に大勢出席し、同窓会の皆様の母校高鍋高校を愛する熱い気持ちと、母校の発展を

願う気持ちの強さをあらためて感じました。記念事業を通して生徒達は、本校九十周年の歴史を顧み、歴史と伝統ある高鍋高校で学んでいることに大きな誇りと自信を持ち、良き伝統を受け継ぎ、更なる飛躍に向け、気持ちを新たにしたいと思っております。これからも、教職員一同「生徒の可能性を最大限に伸ばす高鍋高校」「保護者や地域に信頼される高鍋高校」をスローガンとして情熱に満ちあふれた教育活動を一層推進してまいります。

最後に、今後とも、本校に対する温かい御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。同窓会と、鳴海ヶ丘会をますますの御発展と、会員の皆様の御健康を御祈念申し上げます。御礼の挨拶といたします。

高鍋高校 創立90周年記念事業報告

同窓会事務局長 猪股 司

十一月十七日（土）に高鍋高校創立九十周年記念式典が実施されました。午前中に百二十四名の来賓の方々をお迎えして、高鍋高校体育館で記念式典及び記念演奏会が行われました。式典の前に平成二十三年度OB祭実行委員会が作成したDVD「高鍋高校創設までのあゆみ」が上映されました。記念式典の来賓祝辞の中では、本校OBでもある飛田洋教育長から生徒達に対する温かい激励の言葉をいただきました。

今回の記念事業では、生徒達に本物の音楽を聴かせたいという思いからモーツァルト・カンマーオーケスターによるオーケストラ演奏会を企画いたしました。この演奏会の中で、本校吹奏楽部と「校歌・応援歌」の合同演奏を行いました。

また、午後から同窓会主催で高鍋町美術館で特別講演会を実施しました。講師は画家の大上敏男先生（S二十四年卒）、演題は「流るるまに」高鍋時代を振り返って」でした。参加者は百二十名で本校の美術部や書道部の生徒も参加しました。講演会の中で、大上先生の高校生時代のエピソードを数多くお聞きする事ができました。

午後五時より四季亭で記念祝賀会が行われ、百十名の参加がありました。祝賀会の中で舞鶴一座「秋月鼓童」による祝賀会を盛り上げてくれました。今回の九十周年記念事業では次の事業も行いました。

- (一) 記念碑説明板の設置
本校校庭にある、明倫堂記碑・清観公碑の石碑の説明板を作成いたしました。文書は藤本範行氏、説明板の作成は彫刻家の田中等氏に依頼いたしました。
(二) 創立記念小冊子「創設から今日までのあゆみ」の作成
DVD「高鍋高校創設までのあゆみ」の資料に新たに高鍋高校の現在の歴史を追加して冊子化しました。
(三) 高鍋高校の特集記事「鳴海ヶ丘に誇り」
宮崎日日新聞に、九月二十五日から十一月十一日まで全31回にわたり掲載されました。また、黒木敏之氏（黒木本店）・水永正憲氏（旭化成）・増田秀文同窓会長による記念座談会の特集記事も掲載されました。



ラグビー全国大会に出場して

監督 山本 巧

主将 白石 凱人

第92回全国高校ラグビー大会に出場した際にはたくさんのご支援・援助をいただいたことを深く感謝いたします。

10人の3年生を中心によくまとまり、全国でもかなり小柄な部類ながらそのハッディを感じさせない戦いぶりを見せました。1回戦朝明高校戦では前半12-0とリードするも後半逆転され苦しい展開になりました。それでも決してあきらめず勝利をもぎ取ることができました。

それも学校関係のみならずOB、保護者、地域、関西支部を中心とした同窓会の皆様方の熱い声援があったからこそです。あの不屈の闘志は支えて下さったすべての方の魂が乗り移ったのだと思います。2回戦雨の中の戦いはBシードの若狭学園高校に為す術なく敗れ正月は花園でという目標は絶たれてしまいました。しかし自分たちが理想とする素晴らしいチームと対戦できたこと、大差がついても最後まであきらめずタックルに行き続けたこと、意地でもぎ取った1トライは今後につながるいい財産となりました。

たくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、そのご恩を返すのは卒業する3年生が各方面で高鍋ラガーの誇りを胸に活躍してくれること、今年もまた花園に戻り、昨年のチームを超えること、そして今度以上に応援してもらえようというチームになることだと思っております。今後とも精一杯がんばりますので更なるご支援よろしくお願いたします。ありがとうございます。

花園は、自分達を本当に大きく成長させてくれる素晴らしい場所でした。前年度も花園へ出場して、試合に臨んだのですが2点差で負けたので、強い思い入れのある大会でもありました。今年も二年連続ベストマーチング賞という行進の賞を取るために毎朝6時に起きて練習しました。しかし、全国はそう簡単に甘くなく、二年連続とはいきませんでした。しかし堂々と行進する事ができました。初戦はその後のためので気合いを入れて臨み、校長先生を始め、グラウンドいっぱい響きわたるクラスメート達の応援のおかげで、花園で勝利することができました。その一勝は大きなもので、果たせなかった目標を果たすことができました。次の若狭学園戦は、52点差という大敗でしたが、その中でも、プレーヤー全員が一つになり、1トライをとりましました。全国区の強豪校に、人口ポロにされましたが、一人一人違う何かを掴んだ気がしました。この気持ちを忘れず、次は各々違うステージで活躍したいと思っております。本当に応援ありがとうございます。



なんきんはぜ

実に久しぶりに入った高鍋高校の校舎は、そのままです。四十年ぶりです。母校は自分を青春時代の舞台、あの時の一瞬を思い出させてくれます。「良くできたね。」成績の良くなかった自分を褒めてくれた。国語の時間。先生の言葉は忘れない。自分の今の礎です。篠山先生ありがとうございます。あれから、がぜんやる気アップしました。いつお会いしても、日常の中で安らぎと勇気をいただけるような気持ちになります。

さて高校時代を振り返ってみますと生徒数千四百二十名（今より六百名以上多かったですね）。学級数は三十三。一学級の生徒数も多かったようです。管理棟、第二棟、被服棟、プールは現在と同じもの。第三棟の一階が卒業時の教室でした。小丸川堤防を声張りあげて走ったことも思い出しながら、今その懐かしさと共に高鍋高校に勤務をさせていただいています。

高校時代は新聞配達。今では泣けるような話かもしれませんが、でもその時は普通の事のように思っていました。ちよつぱり遅刻しても黙認してくれていました。でも冬は寒かった。冷たかった。痛かった。振り返ると頑張ったんだって思える。

さて、その時代はなかったもので、今、私達の身の回りに当たり前にあるもの、パソコン、携帯電話、車、エアコン、電子レンジ……。これがないと生きていけないと思われようになってきています。でも、少し見方を変えてみたいものです。今の時代にも最も大事な物は何だろうか。失いかけている物は何だろうか。通学途中の空気や朝の光、田んぼや畑、小丸川の水の音、太平洋を見下ろす尾鈴の山々、私達は自然の中で生かされているという事を認識し、もっとも大切にしていきたいものです。

(森 隆茂)

# 支部総会報告

## 名古屋支部総会報告

名古屋支部事務局長 福本 秀和

名古屋支部総会を、11月10日(土)お昼、第二富士ホテルにて行いました。同窓会から、橋口副会長と猪股事務局長、学校から森事務局長それにOB祭実行委員の代表の方々に参列頂きました。当日は、事務局の私が右肩腱板断裂手術後の入院中で、右腕を固定したまま、又頭は丸坊主の姿で登場したため、話題に事欠かない状況でスタートし、司会幹事の日置江(S43年卒)が代行することになりました。

橋口副会長より、明倫育英奨学金の稼働・財政状況についての説明と、支援要請がありました。森事務局長からは、定員割れ解消の為に、学校として更なる特色や特異性を発揮していく事が必要で、その為の応援要請がありました。猪股事務局長からは、ラグビー部始め生徒達の活躍の状況報告があり、今年も花園に応援に行くぞと気持ちが高まりました。平成25年度OB祭実行委員長の石村氏はじめ各委員からは、昨年度のお礼と本年度の企画段階の報告があり、世代や場所を越えた、OB会面々の支援があつてこそ成り立つものだ認識を厚くしました。

ここ数年、OB祭実行委員の若い方とお話して感じることは、年の差はあれ、学校や地域、職業を通して何かしら結びつく縁があるのだということ、このOB祭の企画を担当する中で、若い人達がぐく成長しているということ、若くはOB祭の企画に併せて、若者を取り込み、支部の活性化につなげて行きたいと強く感じる今日この頃です。

## 川南支部総会報告

川南支部部長 宮崎 吉敏

平成24年9月21日、川南町公民館に於いて、各学年幹事の皆様に、出席して頂き、事業報告、並びに収支報告、支部交流会の開催の承認を頂き、また、剰余金の中から、高鍋高校、明倫奨学金へ金5万円を寄付させて頂くことを満場一致で承認して頂きました。

平成24年11月10日、プライベートホール竹乃屋に於いて川南支部交流会を開催致しました。御来賓に副会長 多賀 孝昭氏、顧問 税田格十氏、教頭 川越淳一氏、事務局次長 津江政彦氏のご出席を賜り、総勢83名の参加者で盛大に開催致しました。

第一部は、川南町長 日高昭彦氏(昭和53年卒)による「川南の可能性」と題して、御講演をして頂きました。ご自分の作ったバラの花を売りに行ってなかなか売れなかったけど、視点や手法を変え、熱意を持って売り切った時の喜びをユーモアを交え話されました。その経験が今の自分を支え、何事にも挑戦する、礎になっている。川南町も皆さんの可能性を秘めている、と熱く語られました。

第二部は、多賀副会長より御挨拶を、川越教頭より御挨拶と高鍋高校の近況を報告して頂きました。その後、税田顧問より、御挨拶と乾杯の御発声頂き、楽しい交流会を開宴いたしました。年代を超え、学生時代の事、母校高鍋高校への熱い思いを、酒を酌み交わし語り合いました。さらに恒例の抽選会を行い、おおいに盛り上がりました。最後に高尾日出夫先輩の万歳三唱の後、全員で校歌斉唱をして終了いたしました。

川南支部は、41歳以上の各学年幹事の皆さんに、会員の方々への開催の案内をお願いしていますが、今後ハガキでの案内も合わせて行い、たくさんの方々に参加して頂ける様、取り組みたいと思います。

## 高鍋地区支部合同同窓会報告

高鍋地区支部部長 緒方 克則

宮崎地区は、宮崎支部(緒方克則支部長、高鍋県庁支部(花坂政支部長)、高崎市役所支部(土公秀樹支部長)の合同同窓会を、平成24年11月16日(金)、ニューウエルシティ宮崎で開催しました。

母校の支援と卒業生相互の世代を超えた交流、情報交換を目的に平成19年度から開催してきました。本年度は、母校創立90周年にあたり、お祝いと母校の支援の輪を大きくするため、広く会員の出席を呼びかけ、106人の方に出席していただきました。脇谷さんの名司会と下川応援団長のパフォーマンス、また、OB祭実行委員の方々に、多人数参加していただき、例年以上に盛大な会になりました。

また、本年度は、この会を母校の奨学金制度の支援の一助にしよう、と出席者有志が各テーブルを回って募金活動をした結果、心こもった多額の募金をいただき、早速、緒方支部長が、翌日の創立90周年記念祝賀会で報告し、寄付いたしました。この場を借りてお礼を申し上げます。

長年の挨拶、津江同窓会事務局次長の紹介、そして最年長の児玉昌道様の乾杯で開会しました。会場では旧交を温める輪、新しい出会いの輪など高鍋高校の輪が広がります。津江次長の母校の近況報告、出席者が持ち寄った景品で行う抽選会、最後に川洋一応援団長の音頭で肩を組んで校歌と応援歌を声高らかに合奏し、黒木希尚様の「また来年」という力強い挨拶で、懐かしく楽しい同窓会を閉会しました。

最後に、同窓会事務局の皆さまの御尽力、御支援に心より感謝し、母校に現役諸君が、文武両道に磨きをかけ未来に羽ばたくことを祈念して報告いたします。

福岡支部総会は12月1日にクリオコート博多にて開催致しました。今回は、高校の90周年記念式典の日程関係で通常の11月予定を変更し行いました。増田会長をはじめと松下副会長、猪股事務局長、新田OB祭実行委員の方々を含め多数参加していただきました。

## 福岡支部総会報告

福岡支部事務局長 原 誠子

福岡支部は、毎年支部総会の時に講演会を開催しています。本年は先輩であり恩師である黒岩正春先生にお話ししようとしていた矢先に、先生が文部科学省生涯スポーツ功労者表彰を受賞されることになり、そのお祝いを講演会に変えて実施することとしました。

この冊子は、税田先輩の講演を聴いて感激した平成23年度OB祭担当の皆さんがぜひ他の同窓会の皆さんにも見て頂こうという事で制作していたDVDやそのときの資料をお借りすることで、まとめることが出来たものです。この冊子制作については高鍋支部が提案し同窓会評議員会で同意を得た上で、同窓会事務局が中心となり23年度OB祭担当と高鍋支部が一緒になって予算の少ない中無事制作し配布することができました。

今後とも高鍋支部としての行事に多くの支部の皆様のご出席をお願い致します。

## 平成25年度OB祭について

事務局次長 日高 茂利

平成25年度OB祭を担当します。平成22年卒業生を代表し、これまでの活動状況を報告いたします。また、お忙しい中ご臨席頂きました来賓の方々にもお礼申し上げます。

私達は昨年7月に準備委員会を発足し、組織体制や事業方針等についての協議を重ね10月に実行委員会を正式に設立いたしました。

実行委員会設立後、各支部の総会や創立90周年記念事業等に出席させて頂いた中で、鳴海ヶ丘会の強固な組織と母校への強い愛着心を再認識するとともに、諸先輩方からの激励に役員一同「期待に応えなければ」との気持ちが一層高まりました。

また、本年1月には学年同窓会を開催しOB祭成功への気持ちを一つにしたところです。

25年度OB祭のテーマは、「つなぐ、刻(とき)を越えて」です。現在、各地でご活躍されている卒業生の故郷への「郷愁」と昨年のOB祭で故郷から発信された「元氣」を繋ぐとともに、これまでの先輩方が培ってこられた伝

平成25年度高鍋高校OB祭実行委員会役員名簿

役職	氏名
実行委員長	石村 幸 広子
副実行委員長	濱田 俊 利二
事務局長	日高 茂 俊
事業推進局長	石崎 俊 龍
事業運営局長	河野 美 香
会計部会長	内田 美 香
総務部会長	船橋 竜 一
クラス役員部会長	藤原 英 伸
販売部会長	佐藤 眞 治
広報部会長	河野 孝 洋
企画運営部会長	濱本 明 俊
ゴルフ部会長	濱本 隆 隆
懇親部会長	井戸川 隆

同窓会育英会表彰者

普通科 中原 康希(303)  
青木 哲平(304)  
長友 孝作(306)  
生活情報科 東倉 希望(307)

おめでとうございます。これからもますます頑張ってください。

明倫奨学金振込口座について

引き続き寄付金を募集しております。振込口座は次の通りです。

① 高鍋信用金庫 銀行名 高鍋信用金庫本店(店番号001) 口座番号 1360949 口座名義 高鍋高校同窓会 育英会

② ゆうちょ銀行 銀行名 ゆうちょ銀行 口座番号 01700-9-141513 加入者名 宮崎県立高鍋高等学校同窓会 「鳴海ヶ丘会」

※寄付金から手数料を差し引いた金額をお振り込みください。

※寄付金から手数料を差し引いた金額をお振り込みになるが、事務局が用意いたしました専用払込取扱票をご利用ください。

平成24年度明倫奨学金寄付者

在京支部、関西支部、川南支部、宮崎支部、福岡支部、高鍋支部、高鍋同窓会(昭和29年卒業生一同)、還暦同窓会(昭和46年卒業生一同)、平成24年度OB祭実行委員会 敬務略

※寄付者の公表は、同窓会支部、OB祭実行委員会、卒業生一同に限らせて頂いております。企業及び個人の寄付者の公表は行っていません。

## 部活動実績

大会名	競技・部名	個人or団体	競技種目 または 部門	氏名	成績
平成24年度宮崎県高等学校一年生体育大会	空手部	団体	女子形団体		第2位
		団体	女子組み手団体		第3位
		個人	女子組み手	島田 知佳	第1位
	ホッケー部	団体	女子形		第3位
		団体	女子組み手団体		優勝
		団体	女子形団体		第2位
平成24年度宮崎県高等学校新人総合体育大会	空手部	団体	男子形団体		第2位
		個人	女子組み手	島田 知佳	第3位
		個人	女子形		第3位
	バドミントン部	団体	女子団体		第3位
		個人	女子シングルス	神田 菜那	第3位
		個人	女子ダブルス	甲斐 光	第3位
柔道部	個人	女子50kg級	中武 玲	第2位	
	個人	女子55kg級			
ラグビー部	団体	女子50kg級		優勝	
	個人	女子50kg級			
第39回宮崎県高等学校総合体育大会秋季大会兼第92回全国高等学校ラグビーフットボール大会宮崎地区大会	ラグビー部	団体			優勝
		個人			
宮崎県高野連表彰 第131回九州地区高等学校野球大会宮崎県予選	野球部	個人		相馬 史也	第3位
		団体			
平成24年度(後期)25年度(前期)宮崎県高等学校硬式野球競技強化推進大会	野球部	個人			
		団体			
平成24年度宮崎県高等学校2年生大会	バレーボール部	団体	男子の部		第2位
		個人	女子シングルス初心者の部	高木 明日香	第2位
第4回バドミントン競技大会第2回モアカップ	バドミントン部	個人	女子シングルス経験者の部	神田 菜那	第3位
		個人			
平成24年度宮崎県高等学校体育大会バスケットボール	バスケットボール部	団体			ベスト8
		個人			
第43回九州高等学校バスケットボール春季選手権予選大会	バスケットボール部	団体			ベスト8
		個人			
平成24年度全国高等学校選抜ホッケー大会宮崎県予選	ホッケー部	団体			優勝
		個人			
平成24年度宮崎県高校新人大会ラグビー15人制	ラグビー部	団体			第2位
		個人			
宮崎県高等学校文化連盟表彰	放送部	団体	オーディオビジュアル部門		全国大会選抜賞
		個人	ビデオメッセージ部門		全国大会選抜賞
	合唱部	団体	合唱部門		全国大会選抜賞
		個人	合唱部門		全国大会選抜賞
	美術部	個人	美術部門(絵画)	吉岡 里緒	全国大会選抜賞
		個人	美術部門(書道)	久保 翔平	全国大会選抜賞
	文芸部	個人	文芸部門	恵利 芽衣	九州大会選抜賞
		個人	文芸部門	林 宏樹	優秀賞
	書道部	個人	書道部門	黒木 美波	優秀賞
		個人	書道部門	高橋 佳大	優秀賞
	写真部	個人	写真部門	山下 葵	奨励賞
		個人	写真部門	橋本 千晶	銅賞
美術部	個人	美術部門(絵画)	吉岡 里緒	特選	
	個人	美術部門(書道)	橋本 千晶	入選	
文芸部	個人	文芸部門	橋本 千晶	奨励賞	
	個人	文芸部門	富岡 倫嘉	準優勝	
吹奏楽部	個人	一般演奏の部		優良賞	
	個人	合同演奏の部		優良賞	
放送部	個人	オーディオビジュアル部門		第2位	
	個人	ラジオ部門		第3位	
NHK杯宮崎県高等学校新人放送コンテスト	放送部	個人	混声A		銅
		個人	混声B		銅
第19回宮崎県ポカールアンサンブルフェスティバル	合唱部	個人	混声A		金
		個人	混声B		金
読売学生書展	書道部	個人		林 宏樹	特選
		個人		佐藤 菜々美	特選
		個人		高橋 佳大	秀逸

## 明倫奨学金報告とお礼について

同窓会事務局長 猪股 司

明倫奨学金に多くの有志の方々より寄付を賜り、誠にありがとうございます。寄付金総額は平成25年1月末までで9,301,347円となりました。昨年4月に奨学生第1号が決定いたしました。早いものでもうすぐ第2号の奨学生が誕生しようとしております。

この奨学金制度は皆様の寄付金によって賄われております。どうか今後とも変わらぬ御支援のほどお願い申し上げます。